

教科の目標	指導・評価の重点および工夫点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器教材や配付資料等を通して、視覚的・体感的に学べる授業を行い、基礎・基本の定着を図っていく。 作業が遅れがちな生徒には個別に対応する時間を確保し、取り組ませていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での実践、体験学習、調べ学習などを通して、学習の連続性をもたせる。 ICT機器を活用して他者との意見や考えを共有し、様々な視点から生活の中の技術について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット PC を積極的に活用し、視覚的・体感的に学べる授業を行う。 目標を提示し、終末に振り返りシートを活用して目標の達成具合を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の学習状況・能力に応じた目標の設定及び評価の工夫を行っていく。 ワークシートや実習振り返りシートを活用し、生徒の学習状況の評価を適切に行う。

◎単元(1～数十時間の学習内容のまとめり)は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICTとの関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	D 情報の技術	・タブレット PC、実物投影機	10	<ul style="list-style-type: none"> ○コンピュータの利用されている形態や利用方法について理解している。 ○コンピュータの基本的な構成と働きや操作に関することを理解できる。 ○ソフトウェアの機能を理解している。 ○デジタル化の方法や情報の量、情報モラルや著作権等の知的財産権について理解し、説明することができる。 ○ソフトウェアの機能を理解し、活用する技能を身に付けている。 ○コンピュータの基本的な操作ができる。 ○設計に基づき、簡単な計測・制御のプログラムを作成することができる。 ○センサの仕組みや役割について理解し、正しく活用することができる。 ○コンピュータの基本的な働きや操作に関することを理解できる。 ○基本、応用ソフトウェアの機能に関する知識を身に付け、説明することができる。 ○フローチャートの名称や各処理の流れについて理解している。 ○身近にあるものから、計測・制御の仕組みについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報社会の変化とともに、コンピュータやネットワークが持つ働きについて評価し、これからの課題について考えている。 ○目的や条件に応じて適切な応用ソフトウェアを選択できる。 ○応用ソフトウェアを利用して情報の処理の仕方を工夫できる。 ○応用ソフトウェアの機能を利用して、作品に工夫した内容を表現できる。 ○さまざまな条件を考慮しながら計測・制御に適した情報処理の手順が工夫できる。 ○計測・制御に関する技術を生活に役立てようとする工夫できる。 ○情報社会の発展とともに、AI等の技術が進歩し、これからの生活について考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活や産業の中で情報の果たしている役割について関心を持ち、情報モラルや知的財産権を考えながら生活に活かそうとしている。 ○コンピュータやネットワークの仕組みに関心を持ち、適正に活用しようとしている。 ○安全な生活や社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んでいる。 ○生活や産業に使用されているコンピュータの働きや課題について自ら考え、調べようとしている。 ○コンピュータの構成を理解しようとしている。 ○基本的なプログラムを作成しようとしている。 ○身の回りで使われている計測・制御を取り入れたデジタル作品に興味をもっている。 ○より良い作品にするために制作に取り組んでいる。
5	1 コンピュータのしくみ					
6	と基本操作					
7	(1) コンピュータの構成					
	(2) コンピュータの使い方					
	(3) 情報通信ネットワークの利用					
	(4) 計測・制御のプログラミングによる問題の解決					
	(5) 社会の発展と情報の技術					
夏休						

9	A 材料と加工の技術	・タブレット PC、パソコン 教室の使用	7.5	○製作品の目的を理解し、材料に適した加工をすることができる。 ○工具や機器を安全に使い、製作品の部品加工、組み立て及び仕上げができる。 ○安全・適切な製作や検査・点検ができる。 ○製作品に用いる材料の特徴と利用方法や加工法について理解している。 ○材料の特徴と利用方法に関する知識を身に付けている。 ○構想した内容を、等角図やキャビネット図を用いて書くことができる。 ○工具のしくみや使用方法を理解している。 ○生活や社会、環境との関わりを踏まえて、材料と加工の技術の概念を理解している。	○材料の特徴を生かした加工方法を考えている。 ○材料や工具に合わせた能率的な作業方法を考えている。 ○構想した内容を作品に表現することができる。 ○製作の過程や結果の評価、改善および修正について考えている。	○身の回りの製品に関心を持ち、材料の性質や特徴について理解しようとしている。 ○生活の中で技術の果たしている役割について考えようとしている。 ○工具の仕組みに関心を持ち、適正に活用しようとしている。 ○製作品の製作に、主体的に取り組もうとしている。
10	1 材料の特徴					
11	クの特徴					
12	2 実習					
1	(1) 設計					
2	(2) けがき (3) 穴あけ (4) 切断 (5) 切削					
3	(6) 部品の検査と修正 (7) 組み立て					
評価材および評価方法			・定期考査 ・授業プリント ・製作品	・定期考査 ・授業プリント ・製作品	・授業プリント ・実習の取り組み ・製作品	

令和6年度 3学年 技術・家庭科(家庭分野) 年間指導計画・評価計画(第1版)

担当 [瀧澤乃彩]

教科の目標	指導・評価の重点および工夫点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。	・ICT 機器教材や配付資料等を通して、視覚的・体感的に学べる授業を行い、基礎・基本の定着を図っていく。 ・作業が遅れがちな生徒には個別に対応する時間を確保したり支援員と協力するなどして取り組ませていく。	・家庭での実践、体験学習、調べ学習などを通して、学習の連続性をもたせる。 ・ICT 機器を活用して他者との意見や考えを共有し、様々な視点から生活の中にある家庭科について考察する。	・タブレット・PC を積極的に活用し、視覚的・体感的に学べる授業を行う。 ・1時間ごとの目標を提示し、振り返りシートを活用して目標の達成具合を確認する。	・個々の生徒の学習状況・能力に応じた目標の設定及び評価の工夫を行っていく。 ・ワークシートや実習振り返りシートを活用し、生徒の学習状況の評価を適切に行う。

◎単元(1~数十時間の学習内容のまとめ)は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICTとの関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	A 家族・家庭と子どもの成長 2. 幼児の生活と遊び 幼児の体と心の発達 幼児の心身の発達と家族の役割 幼児の遊びと発達 幼児の遊びを支える 絵本の読み聞かせ	タブレット	5	○幼児の生活や幼児期の特徴について理解している。 ○幼児の身体や心の発達の特徴について理解している。 ○幼児にとっての遊びの意義について理解している。	○幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定している。 ○幼児との関わりについて解決策を構想している。 ○幼児との関わりについて幼児と一緒に遊ぶことを想定して解決策を構想し、考察したことを表現している。	○幼児との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ○よりよい生活のために、幼児との関わり方について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
5		プロジェクター	1	○幼児との関わり方をイメージしながら、適切な接し方や遊び方を想定して実践することができる。	○幼児用の絵本をもとに、目的や年齢に応じた課題を設定し、解決策を構想している。	○幼児との関わり方について、読み聞かせをもとに課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
6		実物投影機	1	○幼児との関わり方をイメージしながら、安全なおもちゃを製作することができる。 ○基礎的な縫い方を理解し、計画的に製作することができる。	○幼児のために工夫されたおもちゃについて夏休みの課題をもとに、目的や年齢に応じた課題を設定し、解決策を構想している。	○幼児のために工夫されたおもちゃについて、主体的に製作に取り組もうとしている。
7			1	○幼児との関わり方について理解している。 ○幼児とのふれあい活動を通して、学んだことをまとめることができる。	○幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定している。 ○幼児との関わりについて解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことをまとめ、論理的に表現している。	○幼児との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ○幼児との関わり方について、課題解決に向けた一連の活動をふり返って改善しようとしている。 ○よりよい生活のために、幼児との関わり方について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
9	ふれあい体験の事前指導 幼児とのふれあい体験 ふれあい体験振り返り		5	○幼児のおやつの特徴について理解している。 ○材料に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、基礎的な日常食の調理が適切にできる。	○幼児との関わりについて解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを表現している。 ○幼児のおやつ調理を通して、自分の現在もしくは将来の家族生活の解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを表現している。	○よりよい生活のために、幼児との関わり方について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ○幼児のおやつ調理を通して、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
10			1			
11			2			
12			1			
1	幼児のおやつ		2.5			
2						
3						

評価材および評価方法	定期考査・授業プリント・作品・実習	定期考査・授業プリント・作品・実習	振り返りシート・授業の取り組み・作品・実習
------------	-------------------	-------------------	-----------------------